

新型コロナウイルスに対する会員への影響 ～アンケート調査から見てきたこと～

静岡福祉大学 檜木博之

要旨

静岡県医療ソーシャルワーカー協会（以下県協会）では、新型コロナウイルス感染拡大によって医療機関や MSW の業務にどのような影響が出ているかについて、会員に対してアンケート調査を行った。そこから見てきた会員の影響を明らかにし、県協会の対応を検討した。

1. 目的

新型コロナウイルス感染拡大が続いている中、医療機関に勤務する医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）の業務にさまざまな影響が及んでいる。本研究は、新型コロナウイルス感染拡大によって医療機関や MSW の業務にどのような影響が出ているかを明らかにし、今後の県協会の対応を検討することを目的としている。

2. 研究方法

2020 年 11 月に Googlefoam の URL を県協会の全会員（334 名）にメール及び郵送にて送付し、各自回答後送信することとした。78 名から回答があり、回収率 23.4%であった。

倫理的配慮として、依頼文にて研究目的を説明し回答をもって同意を得たこととした。また個人が特定されないように配慮している。

3. 研究結果

回答者の所属機関は病院 68 名（87.2%）、介護老人保険施設 7 名（9%）、診療所 2 名（2.6%）、行政機関 1 名（1.3%）であった。

所属機関での新型コロナウイルス対策（複数回答可）は、来院時の検温 77 名（98.7%）、面会制限 76 名（97.4%）、部屋の換気 70 名（89.7%）、外部者の来院制限 63 名（80.8%）、職員の県外移動の自粛 58 名（74.4%）、院内研修のリモート化・フェイスシールドの着用 30 名（30 名）38.5%、院内会議のリモート化 17 名（21.8%）、カンファレンスのリモート化 14 名（17.9%）、在宅勤務 2 名（2.6%）であった。MSW が業務を行う上での対策（複数回答可）は、面接室の換気・出勤前の健康確認 69 名（90.8%）、県外の移動自粛 63 名（82.9%）、院外への外出業務中止 33 名（43.4%）、面接時のフェイスシールドの着用 6 名（7.9%）、リモートでも面接 4 名（5.3%）であった。

機関の影響（複数回答可）は、外来患者の減

少 54 名（79.4%）、入院患者の減少 48 名（70.6%）、給与・賞与の減少 24 名（35.3%）、風評被害 22 名（32.4%）、職員数の減少 2 名（2.9%）であった。MSW が業務を行う上での影響（複数回答可）は、面接回数の減少 60 名（76.9%）、患者家族と会えない 54 名（69.2%）、外部研修に参加できない 52 名（66.7%）、他機関と会えず連携困難 35 名（44.9%）、面会・外来制限の院内の対応窓口となった 17 名（21.8%）であった。患者（利用者）への影響（複数回答可）は、不安を訴えるようになった 56 名（73.7%）、認知症の症状が悪化した 39 名（51.3%）、影響はない 11 名（14.5%）、病状の悪化 8 名（10.5%）であった。患者（利用者）家族への影響（複数回答可）は、不安を訴えるようになった 60 名（76.9%）、病院への要望が増えた 45 名（57.7%）、イライラするようになった 25 名（32.1%）、影響はない 5 名（6.4%）であった。

業務を行う上で不安なこと（複数回答可）は、病院・機関内感染 72 名（92.3%）、自身の感染 70 名（89.7%）、風評被害 39 名（50%）、研修を受講できない 22 名（28.2%）であった。県協会への要望（複数回答可）は、オンラインで研修を行ってほしい 47 名（62.7%）、各機関の感染対策について知りたい 44 名（58.7%）、コロナ対策について情報を発信してほしい 30 名（40%）、会員同士で情報交換したい 25 名（33.3%）、対面で研修を行ってほしい 5 名（6.7%）、特にない 2 名（2.7%）であった。

4. 考察

研修や会議のリモート化、外部との関わりができない等の影響が明らかになった。また在宅勤務できない、風評被害への不安等 MSW だからこそこの課題も明らかになった。県協会が会員の現状を共有できる場となっていきたい。